



看護師としてのふさわしさを物語る、着ると自然と背筋が伸びるユニフォーム。着用することが看護師としての自覚と誇りを促し、仕事へのモチベーションを高めてくれる

「病院の顔」である看護師が着用するユニフォームは、病院のイメージそのものに直結する



「連動は5日動まで、夜勤明けは必ず休日を徹底しています」と話す大柴看護部長。「優しい看護」は、働きやすい職場づくりにも裏打ちされたものといえる



採用商品：LH-6272ネイビー

品のあるナースウェアが「優しい看護」につながる

ナースウェアの選定は、看護師複数名で選定チームをつくって最終的には投票で選定を行います。採用の決め手は機能性と着やすさですが、大前提として着たときの「品性」を大切に選定しました。

現在採用しているこのナースウェアは、一般的なスクラブに比べきれいに着こなせるデザインなので、どんなときでも、着用するだけで「きちんと感」が出ます。着崩れたナースウェアだと、疲れて見えてしまって患者さんも相談しにくいです。

当院の看護師は、患者さんやそのご家族から「優しい」と評価いただくことが多いのですが、身だしなみを整えることで、心の余裕を患者さんに表すことができ、それが優しい看護につながっていると感じています。

ナースウェアで体現する「安心感と温もり」

当院では、入職4年目以降の看護師は、毎年3タイプのナースウェアから1つを選んで更新できる決まりになっていて、ほとんどの看護師がこのナースウェアを選んでいきます。これまではホワイトのみで、ネイビーのナースウェアの採用ははじめてでしたが、インナーが響かないのもメリットです。3年目までの看護師は、4年目になってこのナースウェアが着られるのを楽しみにしています。

当院の看護部では、「安心感と温もりのある患者中心の看護の提供」を理念として掲げています。この看護に対する姿勢を体現できるナースウェアを採用することができたと感じています。



自治医科大学附属病院

1974年開院。現在、病床数1,132床、診療科46科を開設。北関東・栃木県の基幹病院として、「自治なら安心」「優しい看護」と評価される患者さんに寄り添った看護を实践。
〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1
<http://www.jichi.ac.jp/hospital/top/>

「HIを支える白衣の力」

第1回 自治医科大学附属病院

HI(Hospital Identity)は、病院の文化や特性・独自性を高めるうえで重要な、ブランディング戦略です。そのHIを高めるために白衣がどのような力を発揮するか。この連載では、デザイン性だけではなく白衣へのこだわりをお伝えしていきます。今回は、「安心感と温もり」を看護理念として掲げる自治医科大学附属病院で、大柴幸子看護部長にお話をうかがいました。



ナースウェアは病院のイメージに直結する

看護師は、患者さんに1番近い立場でかかわる身として、「病院の顔」だと思っています。また、看護の仕事は患者さんに医療サービスを提供します。ベッドに寝ている患者さんと接する際は、下から患者さんに見られます。とても近い距離で、日常ではあまりないアングルから人に見られ

ることもある職業として、メイクなども含め、身だしなみには注意するように伝えています。

「患者さんの目にどう映るか、信頼感・安心感を与えられているか」を最優先に考えたとき、ナースウェアは単なる作業着ではなく病院のイメージに直結するとらえて着こなしてほしいと思っています。そうした意識をもつにあたって、このナースウェアには大いに助けられている部分があると感じます。